

【早明浦プロジェクト】シンポジウム

「上流域と下流域の交流について考える」

平成25年2月11日(月・祝) 14:00～16:00

香川大学幸町キャンパス(高松市幸町1番1号)
研究交流棟5階 研究者交流スペース

参加費：無料

プログラム 【座長：平尾 智広(香川大学医学部 公衆衛生学 教授)】

S1 つながる水にいのちを感じて

山田 国司(高松市市民政策局政策課 主幹)

S2 上流域から見た交流の現状と理想の姿ー水で生きるー

澤田 智則(土佐町産業振興課 課長)

S3 コミュニティをベースとした流域の地域資源活用方策

西成 典久(香川大学経済学部 准教授)

S4 源流の里と「まち」をつなげるには？

ー交流・滞住ではじめる四国の地域づくりー

大槻 知史(高知大学教育研究部 准教授)

生活を営む上で水はとても大切です。多すぎても少なすぎても私たちの暮らしに大きな影響を及ぼします。昭和50年の早明浦ダム、香川用水の完成は、長年に渡って見舞われてきた香川県の水不足を劇的に緩和し、大きな恩恵をもたらしました。この時より、吉野川上流域と香川県は、新たな水系を通じた「上流域と下流域の関係」になりました。それから40年近くが経過し、上流域、下流域とも多くの社会的問題を抱えるようになりました。特に上流域では、高齢化と人口減少がいち早く進み、森林の保全が十分にできない状態が起きています。この状態が長く続くと、将来的には水系全体の生活圏に大きな影響を及ぼしてくるでしょう。すなわち上流域と下流域は一蓮托生であり、県境を越えた四国サイズの問題としてとらえる必要があります。これまで上流域と下流域の関係は行政主体で築かれてきました。その基本は今後も変わらないのかもしれませんが、しかしこれらの問題を理解し、解決に至るためには、民官学、市民レベルにおける、さらなる人と知の交流が必要と考えています。

高知、香川の官学からゲストをお迎えし、本テーマについて議論を深めてみたいと考えています。

【申込方法】

平成25年2月7日(木)までに氏名、所属(または職種)、連絡先(電話番号、ファックス、E-mailアドレス)を記入の上、郵送、ファックス、E-mailのいずれかでお申し込みください。

【申込先／問い合わせ先】

【早明浦プロジェクト】事務局(担当：吉岡)

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750-1 香川大学医学部 公衆衛生学内

FAX: 087-891-2134

E-mail: sameura@med.kagawa-u.ac.jp